

番号	10	平成26年度公共事業再評価調書		担当課名	砂防課
事業名	急傾斜地崩壊対策事業		事業主体	静岡県	
箇所名	和田 ^{わた}		関係市町村	掛川市	
事業採択年度	平成22年度	計画期間	平成22年度～平成30年度		
用地着手年度	平成23年度	工事着手年度	平成23年度		
再評価理由※	事業採択（H22）後5年間に経過した時点で継続中				
全体事業費	百万円 330	投資状況 (百万円)	～H24年度 102	H25年度 30	H26年度見込 40
計	172				
事業概要	<p>(1)事業目的</p> <p>近年の集中豪雨の頻発化傾向や予想される大規模地震によるがけ崩れを防止するため、急傾斜地崩壊防止施設の設置により、住宅等に及ぶがけ崩れ災害を防止し、住民の安心・安全な生活基盤の確保を図る。</p> <p>(2)事業内容</p> <p>擁壁工（高さ1.5～13.0m）延長：353.6m</p>				
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会情勢等の変化</p> <p>被害想定範囲（がけ崩れが発生した場合に土砂が到達すると想定される範囲）内には、人家13戸や、市道堀ノ内道線、普通河川堂ノ谷川などがある。当概箇所は急峻な地形で、平成22年8月には、人家裏で小崩落が発生するなど、今後も崩壊の危険性が高い。平成27年度以降には、土砂災害防止法に基づく土砂災害（特別）警戒区域の指定を予定している。</p> <p>(2)事業の投資効果</p> <p>投資効率（費用対効果）B/C：1.96 総便益：648百万円 総費用：330百万円</p> <p>(3)事業の進捗状況</p> <p>事業費進捗率（H26末）：52.1%（172百万円／330百万円） 事業量進捗率（H26末）：擁壁工 45.7%（161.7m／353.6m）</p> <p>評価 <u>継続が妥当</u>・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</p>				
【視点2】	<p>これまでも、用地買収や工事協力などの地元調整が円滑に行われており、今後の事業についての反対者等もない。アンケート結果でも、回答者全員が「事業を継続する必要性を感じる」と回答しており、事業に対する地元の期待も非常に大きい。引き続き、地元との協力関係の維持・向上などに努めることから、今後も事業は順調に進捗し、平成30年度完了見込みである。</p> <p>評価 <u>継続が妥当</u>・視点3による見直し後継続が妥当・継続は妥当ではない</p>				
【視点3】	<p>新たなコスト削減・代替案立案等の可能性</p> <p>掘削発生土の処分先を無償の処分地に変更するなどコスト削減を図っている。今後も引き続き、掘削発生土の工事間流用や無償処分先の確保など、コスト削減に努める。</p>				
対応方針案	<p>(1)対応方針案</p> <p>本事業を <u>継続</u> ・見直し後継続 ・中止) する。</p> <p>(2)理由</p> <p>事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められていることから、事業を継続して整備の促進を図る。</p>				

費用対効果算出説明書

「和田」急傾斜

(「急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案)」建設省砂防部)

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額]	648.0百万円
総費用C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	330.0百万円
B/C		1.96

総便益

[急傾斜事業を実施しない場合の被害額]－[急傾斜事業を実施した場合の被害額]

年平均被害軽減期待額を評価対象期間59年(整備期間9年＋耐用期間50年)について累計する。ただし、年平均被害軽減期待額は算出基準年(平成26年)に基づく社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{便益計} &= \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n \\ &= 648.0 \text{百万円} \end{aligned}$$

- ※ 年平均被害軽減期待額: がけ崩れ発生 of 生起確率(1/10年超過確率降雨及び1/50年超過確率降雨)それぞれに対応した被害軽減額の平均値の合計。
- ※ 人的被害額/1人あたりは、1/50年超過確率降雨のみで発生し、市町の人口比率を反映した各年齢別人的被害額の合計額である。その合計額を被害想定区域内の年齢別死者数を想定し乗じて人的被害額を算定する。
- ※ 整備期間中の被害軽減額は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]

各年次の建設費と維持管理費(過去5ヶ年の平均値)を評価対象期間59年(整備期間9年＋耐用期間50年)について累計する。ただし、各年次の建設費及び維持管理費は、算出基準年(平成26年)に基づくデフレータ及び社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{費用計} &= \sum \text{年間建設費} / (1+0.04)^n + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\ &= 328.0 \text{百万円} + 2.0 \text{百万円} \\ &= 330.0 \text{百万円} \end{aligned}$$

和田地区の位置

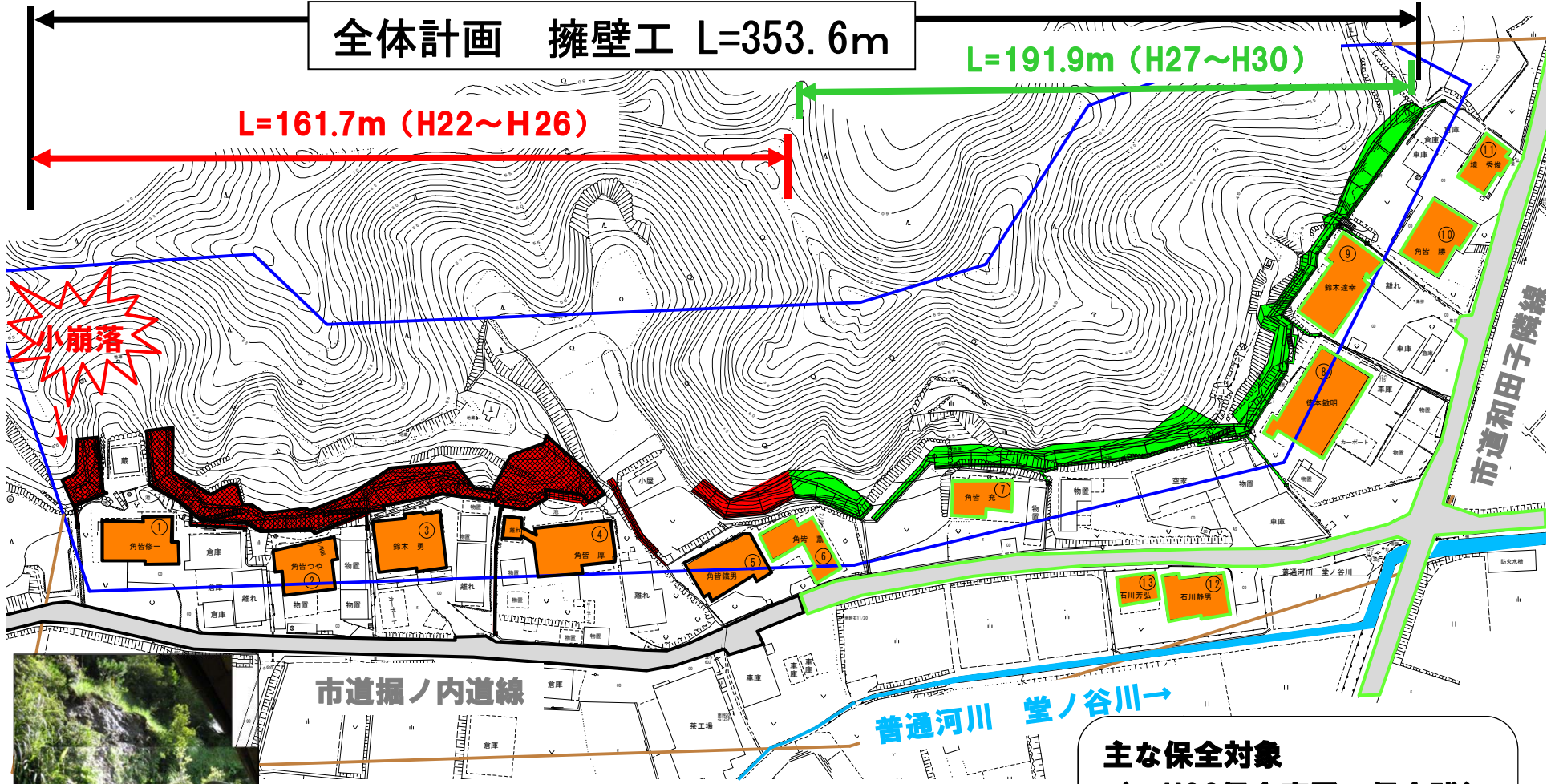


和田地区の事業概要

全体計画 擁壁工 L=353.6m

L=161.7m (H22~H26)

L=191.9m (H27~H30)



(再) -河川砂防-50



人家裏の小崩落 (H22.8)

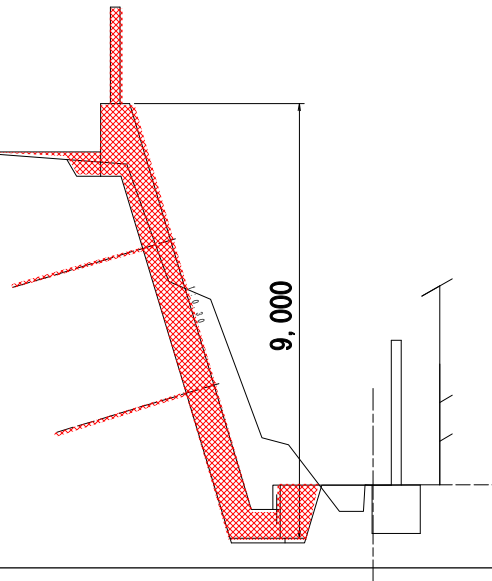
- 【凡例】
- H25まで整備完了
 - H26整備完了予定
 - H27以降施工予定
 - 急傾斜地崩壊危険区域
 - 被害想定範囲

- 主な保全対象
(~H26保全完了+保全残)
- 人家13戸
(■ 5戸 + ■ 8戸)
 - 市道2路線
(■ 1路線 + ■ 1路線)
 - 普通河川堂ノ谷川

施設の整備状況と今後の対策工事

代表横断面図

擁壁工
①整備済箇所



①擁壁工(整備済箇所)



擁壁工(整備予定箇所)

総便益	648百万円
総費用	330百万円
B/C	1.96

事業の進捗状況(H26末)

- 事業費 52.1%
- 擁壁工 45.7%



**施設整備を継続し、
人家8戸の保全を
図る**